

## 子供たちの視線から小児歯科 診療をみつめて



さかぐち小児・矯正歯科医院 歯科衛生士

梶 原 智 子

### ■ 略歴

1985年	福岡医科歯科技術専門学校卒業
1985年	なかお小児歯科勤務
1989年	いづち小児歯科勤務
1993年	吉村歯科医院勤務
1995年	さかぐち小児・矯正歯科医院勤務
	現在に至る。

日常の診療室の様子を眺めていると、笑ったり泣いたり遊んだりしている子供たちなど小児歯科独特の人間模様が見えてくる。普段の生活のなかで子供たちと接している私達と、デンタルスタッフとして関わっている私達の違いを考えてみた。前者は優しさに溢れ、後者は歯科診療の大切さを教える使命を担い患児にとって少々怖そうなイメージを与えてはいるのではないだろうか。当医院においては、こうしたイメージを少しでも補うために様々な工夫を行っている。今回当医院の診療システムを介して日常の診療風景から捉えた患児との信頼関係、心のふれ合いについて紹介する。

当医院の診療システムにおいては、[子供の人間性を尊重した歯科治療]をモットーに患児の自発的な協力を促すよう配慮している。従って年齢にとらわれず、コミュニケーションがとれる患児では、治療で使用するタービン、バキューム、スリーウェイシリングなどに対しTell, Show, Doのトレーニングを行っているが、できる限り恐怖心を和らげるよう人形（アンパンマンetc）を用いてそれらの器具を患児自身に試用させることにしている。また非協力児に対しては、母子同行または分離、レストレーナーの使用の有無などについて医院側の方針を打ち出すと共に保護者との綿密なインフォームドコンセントを行っている。

小児歯科診療において信頼関係を築くためには、保護者に治療に対する理解と安心感を与え、患児の感情を充分に受け止めてあげることが効果的ではないかと考える。相互の信頼関係を基に小児患者との心のふれ合いを求め、定期的な口腔管理を確立していきたい。